

第 67 回 日本卵子学会学術集会

2026.6.6-7 埼玉(川越)

O-076

iDAScore は胚盤胞移植法選択の指標となり得るか

— BL2 個移植と 2step ET の比較 —

堀金聖羅 佐藤学 森本義晴

医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】2024 年にタイムラプスインキュベーター(Embryoscope)を導入し、AI 評価アルゴリズムである iDAScore v2.0 による客観的な胚評価が可能となった。本研究では、単一胚移植で妊娠に至らなかった症例や高齢症例における治療戦略として、iDAScore を用いた胚質評価が、移植方法(胚盤胞 2 個移植(BL2 個)と 2 段階胚移植(2step ET))選択の指標となり得るかを検討した。

【方法】2024 年 1 月から 2025 年 5 月までに実施した、iDAScore 評価胚を含む 2 個移植周期を対象とした(2step ET:147 周期、BL2 個移植:138 周期)。2step ET は分割胚移植と胚盤胞移植の両方を実施した周期のみを含めた。iDAScore により胚盤胞を可(<5.0)、良(5.0-7.4)、優(≥ 7.5)の 3 群に分類し、年齢は A 群(≤ 34 歳)、B 群(35-39 歳)、C 群(≥ 40 歳)に分類した。臨床妊娠率(GS 陽性率)および多胎妊娠率を比較検討した。

【結果】BL2 個移植および 2step ET の GS 陽性率はそれぞれ 45.7%(63/138)、39.5%(58/147)であり、両群間に統計学的有意差は認めなかった。年齢群別では、A 群では 2step ET、C 群では BL2 個移植で GS 陽性率が高い傾向を示した。多胎率は BL2 個移植 14.5%(20/138)、2step ET 4.1%(6/147)であり、BL2 個移植で高値であった。胚盤胞の質別解析では、BL2 個移植および 2step ET のいずれにおいても、iDAScore ≥ 5.0 の胚盤胞を含む症例で GS 陽性率が一貫して高い傾向を示した。

【結論】BL2 個移植と 2step ET の妊娠成績に有意差は認めなかったが、年齢群により有効な移植戦略が異なる可能性が示唆された。iDAScore ≥ 5.0 の胚盤胞では移植法に依らず高い妊娠率が得られており、妊娠成立には移植個数より胚質が重要であると考えられた。一方、BL2 個移植は高齢症例において妊娠率向上の可能性を示すが、多胎率が高いため、年齢および胚質を考慮した慎重な治療選択が必要である。